



【第2弾】 認知症まちづくり 地域円卓会議 in 首里

誰でも過ごせるみんなの居場所、ゆんたくばあめぐみオープンから 620 日。
みんなで考える、居場所継続のための今後のあり方

実施報告書

- 日 時： 2025 年 1 月 10 日（金）13:30-16:30（受付開始 13:00-）
場 所： 首里公民館 展示室 3 階（沖縄県那覇市首里当蔵町 2 丁目 8-2）
主 催： 沖縄認知症見守りコンソーシアム
（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
共 催： 特定非営利活動法人グランアーク
協 力： NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】【第2弾】認知症まちづくり地域円卓会議 in 首里



- 日時：2025年1月10日（金）13:30-16:30
- 場所：首里公民館 展示室3階
- 着席者数：8名（論点提供者、司会、記者を含む）
- 参加者数：18名（ゆんたくばあめぐみ利用者、行政等）
- 主催：沖縄認知症見守りコンソーシアム（公益財団法人みらいファンド沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会）
- 共催：特定非営利活動法人グランアーク
- 協力：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

阿波連 愛香（特定非営利活動法人グランアーク）

困難でも過ごせるみんなの居場所、ゆんたくばあめぐみオープンから620日。 みんなで考える、居場所継続のための今後のあり方

ゆんたくばあめぐみは、2023年5月に首里儀保町につくられた、さまざまな方が自分らしく過ごすことができる新しい居場所です。医療・介護保険や福祉制度に頼りすぎない、利用者の主体性を大切にした運営をしています。利用者の様々な人生の課題に寄り添い、彼らが自分自身の課題に取り組み解決に向かえるようにセルフマネジメントを高めるサポートを行ってきました。しかし、せっかくスタートしためぐみですが、純民間のすてきな拠点をどのように存続すれば良いのか悩んでいます。今回の円卓会議では、行政・社会福祉協議会・地域の方々を含めためぐみに関係する方々みんなで居場所継続のヒントをつかむべく、これまでのめぐみの歩みやエピソードを振り返りながら考える場にしたいです。

センターメンバー



阿波連 愛香
特定非営利
活動法人
グランアーク



仲里 衣愛
那覇市地域包括支
援センター大名
センター長



奥原 弘美
石嶺小学校区
まちづくり協議会
福祉部
会長



仲程 大輔
社会福祉法人
那覇市社会福祉協
議会地域福祉課
課長



米須 ゆり恵
那覇市役所
ちやーがんじゅう
課



玉木 千賀子
沖縄大学
人文学部福祉文化
学科
教授

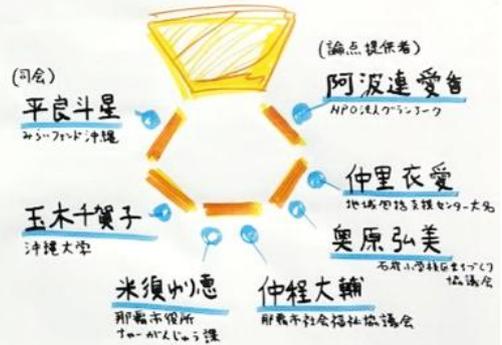
認知症まちづくり 地域円卓会議 in 首里 第2弾

2025. 1. 10 (金)

13:30 ~ 16:30

④ 首里公民館 展示室 3F

誰でも過ごせるみんなの居場所、
ゆんたくばあめぐみオープンから
620日。みんなで考える、
居場所継続のための今後のあり方。



主催：沖縄認知症見守りコンソーシアム
(公益財団法人みらいファクト沖縄、公益社団法人沖縄県地域振興協会)
共催：特定非営利活動法人 グラマーク
協力：NPO 法人 まちなか研究所 わくわく

論点提供

阿波連愛香さん

地域のみんなでつくる健幸長寿サロン

ゆんたくばあめぐみ

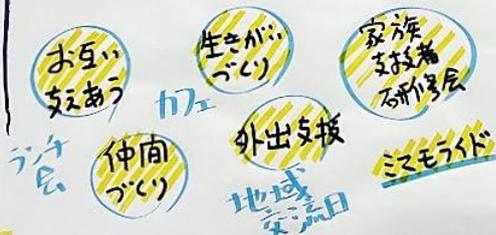
R.5.5月 首里儀保町に開所

休眠預金補助事業

地域でくらす認知症の方増えている

居場所があることで

- ① 認知症につながる社会的リスク予防
- ② 認知症になっても安心、安全にくらし、外出もできる地域づくり、居場所づくり。



開所 338日

自立~要支援I,II
60代後半~90代

のべ訪問利用者 2,427名 + α

イベント参加者 のべ 1,715名

支援者関係来訪者 168名 + α

民生委員・自治会・社協・包括・支援員・居宅ワーカー...

- ① 制度につながるべき人がつながらない
 - ② 家が安全でない
 - ③ 90世代
 - ④ 中学生不登校
- コミュニケーションの中で対応力つく。

互近助
キノウ

居場所 排除せず
支える地域づくり

目標、お生さがり 最低
人と人とのつながり 年間 500万円 必要

地域のみんなでつくる健幸長寿サロンの共生社会の自治自走

R7.2a 事業完了 → 継続のために
自己資金・助成金・補助金

仲里 衣愛 さん

那覇市地域包括支援センター 大名

居場所ができたから
みんな元気になっている

かんじゅう教室
認知症予防教室
お料理教室

ゆんたくばあ
を会場に
出前講座の依頼がきた

ご近所先生
活躍のお方
でした

気軽に歩いて行ける場所に集いの場
をつくらう。

- 人との接点うまれている
- 地域の人から元気になって
- 個別支援 → 専門的ノウハウあつたよりにしている

奥原 弘美 さん

石嶺小中学校区まちづくり協議会 福祉部会長

2011年設立 石嶺中・福祉教育 年1回
健康相談会 (年一度支給日)

銀行から相談 - 認知症の人の対応

団体に抽出会に委託
この数年、男性が多い
家族の相談
介護の相談

ナース、ケアマネ、民生委員
3ヶ所・各3名体制
包括も入る (9人)

琉銀・沖銀・JA

応急法講習会

9:30~11:30
血圧
血流
骨密度) 測定

- ✓ めぐみのような場、石嶺にも必要
- ✓ 自主的活動うまれても、なかなかつづかない
- ✓ 次世代へどうつなぐか
- ✓ 拠点、キザイをどうしていくか
- ✓ 包括大名がかかわっているのよかった
- ✓ 応援がもうちょっとあってもいいのに
- ✓ 着工、小キボ多キノウを生かしていければいいかも

仲程 大輔 さん

那覇市社会福祉協議会

ちねん商店 → 地域見守り隊 結成

ぎぼの1/3 高齢化率 37.5%

首里 29.4%

つながり



歩いて行ける居場所

いきいきサロン 空家
しよぎサロン 男性

ゆんたくばあめぐみ

キッツする → 出口支援
までとりにくんでいる

12トップ 専門性
コミュニティナス
がある居場所

多キノウだからこそ、むずかしい経営

事業としてとらえるか。

ボランティアなとらえ方として。

地域の人の経営考案

ひとと、助成のくみあわせ

米須 ゆり恵 さん

那覇市役所 5階 - かんじゅう課

人口 315,465人 (R5) 人口減少しはじめた

65才以上 77,449人 (R5)

高齢化率 24.6% (R5)

今後、人口減、高齢者増、生産年齢人口減

認知症カフェ

26ヶ所 → 首里地区 4ヶ所

気軽に参考できて
相談できる

認知症地域支援推進員

18名

月1回
2週に1回

相談したけれど、場がない、という声

運営のための人材・費用

気軽にオープンに行ける場」の必要性は、

各施策でいわれている

たてわりをこえての
評価・ギロンを

重層的支援体制
整備事業など

赤い羽
ふれあいデイサービス

玉木千賀子 先生

沖縄大学 人文学部 福祉文化学科 教授

「聞き書き」 支援を必要としている人の
願いや生活を知る

共生・支えあうとは？

共に生きる

「〇〇さん、普段何をしているだろう？」
「〇〇さん、大丈夫かな？」

気にかけて、声をかける、手をさしのべる

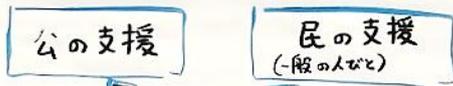
ひとりの人格として、むきあう

「ゆんたくはあめぐみ」 その関係性が
生まれる場

- 誰もが自然体で居ることできる
- 自分の存在が認められることで他者への気づき生まれる
- それぞれの価値観や経験から生まれる多様な気づきの
がなす

場のもつ可能性を最大化する「コーディネーター」の存在

コミュニケーションの力



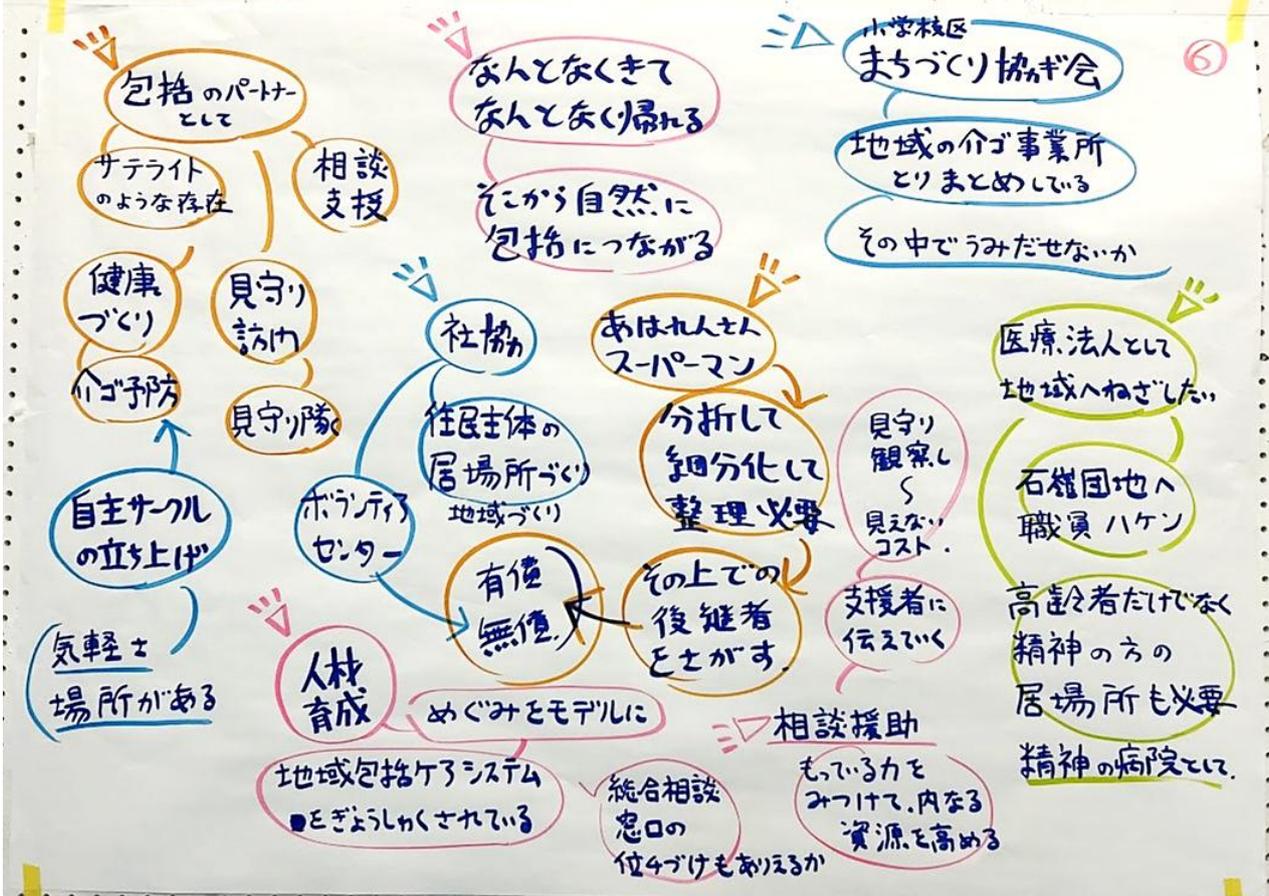
⑤

補完的關係に基づいた協働

「こうありたい」と願うくらし
地域の母
ビジョンの共有大事

▶ 「ゆんたくはあめぐみ」がもつ可能性

- 対話とおとした民主的な地域づくりの場
に 対話の場、いろいろな人がまじわる。
- 関係人口を広げて様々な支え手を増やす
支えたいという人増えている。



- (時間必要、でもお金)
- (つなげ続けること)
- (細分化 → 分析 誰かやってほしい、いっしょに仕事したい人いる)
- (責任人口)
- (地域包括ケアシステム)
- (支援者とい、成長できる)
- (学生にとっても)
- (石井修もお金にしたい(斗星))

- ③ ぬじみのキノウ分析
相談 → 制度つなご
それだけではない
- ④ 制度のお金
ボランティア) 経営モデル
パートナー必要

■今後のアプローチの方向性（提案）

- 1) ゆんたくばあめぐみを継続していくためには、業務（機能）を細分化、分析整理を行い、その一端を担える生活支援コーディネーターやボランティアの専門職の方など、支援に関わる関係人口を増やしていくことが必要。
- 2) 学生たちがめぐみでの活動を通して福祉を学べる場となっていることは良いこと。学生への研修が事業として資金に繋がるような制度はないか、情報を得ていくことも大切。

■参加者によるサブセッション

誰でも過ごせるみんなの居場所、ゆんたくばあめぐみオープンから 620 日。

みんなで考える、居場所継続のための今後のあり方

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

感想

★ゆんたくバーメグミ(月1～程度)

→心によゆうができた。

★人柄が良くて、相談しやすい

→近くにあることが良い

★昼食会に行っていて楽しく続けている。

→人とのつながりで参加できた。

→30年振りに会えた(同級生)

→読み聞かせの出番ができる。

継続するためには?

・行政に認めてもらって助成金をつける。

★特技をもっている人が多い地域

②

(めぐみの近所)

アハレンさんに相談・利用者

1万/月 12万円×〇人 貸部屋(民泊)

ムクナマメ 1株100円 寄付・貸し料

運営マネージャー

水さい画・ウォーキング、体操などの先生

ご近所先生 4丁目にお住まい

ジャー・地域でお金を集める

(ナハ市医師会保健師)

包括大名から依頼あり

人生会議1回/月 4回/R6開催

(ナハ市まちづくり協働推進課)

③

人が集(う)

ここに来たらだれかにあえる

助かる、皆のため

安心感、出入り

力もらえる

世代間交流

皆の居場所

令和6年 かりゆし大学

→認知症サポーター

きっかけ

地域 学びを発揮できる場

補完かんけい

おしゃれして 月1食事→提言

色々な変化ある

純粹に続けてほしい

④

ひと=つどう一市 →ゆんたくばあ

活動費→つどう 会場使用料

コミュニティを続ける

支え合うためのお金

地域のひとの主体性

市からもらって

補助金(活動費)

サークル活動の会場

家族としての想い

元気をもらう場

気持ちを出す場所

ゆんたくばあに通う人々のパワー

気もちと出る場所

◎デイサービスに行くよりも元気になって帰って来る

本人と家族の間を取りもつコーディネーターとして

互近所さん達の

⑤

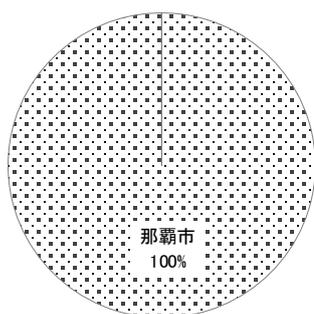
- ・毎日いることが大事
 - ・多機能な場をどう持続させるか…
- 制度を変えてほしい(書類難しい)
- 住民主体のボランティア
- ・制度につながるまでの間の時間
- 期間限定の仕組みできないか？
- ・クラウドファンディングをしてみてもは？

【第2弾】認知症まちづくり地域円卓会議 in 首里 参加者アンケート集計

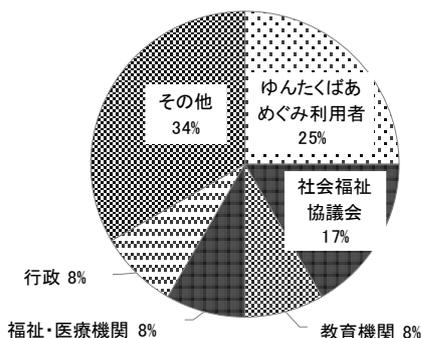
◆概要

- ・日時：2025年1月10日（金）13:30 - 16:30
- ・場所：首里公民館 展示室3階
- ・着席者：8名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：18名（ゆんたくばあめぐみ利用者、行政等）
（アンケート回収12名、回収率67%）

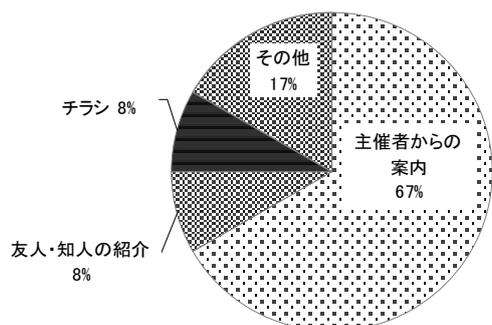
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



4. 満足度

平均：4.8（5点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不満足	未記入
9名	0名	1名	0名	0名	2名

5. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ 着席者の発表からめぐみの重要性&多様性が理解できた
- ・ 居場所の存在を周知徹底するために民間はもとより行政も参加することによってSDGsになることが大切だとわかった。
- ・ ネットと違う身近な場所で情報がえられた！
- ・ 地域の方のめぐみに対する気持ちをきく事ができた。あはれんさんの仕事を細分化実現へ共通認識を持てた。
- ・ いつも参加すると当事者としての自覚で自分ごととして向き合うことができる会ギとなっています。ありがとうございます。
- ・ それぞれの立場からの意見を聞くことができ、立場による見解の違いを知る機会になりました。
- ・ いろんな機関がめぐみとつながっていて、あはれんさんの頑張ってきた道のりがみえて感動しました。
- ・ 司会ははじめテーマの報告者の内容がわかりやすく中座できなかつた。参加してよかったと思った。那覇市の人口構成、将来予想など、市民の友に地区別（字毎とかでも）にくわしく掲載して市民に考えさせてほしい。アイデアを募集するとか。自治会の（希望）単位とか。

- ・ 地域のつながりや相談機能を体現化されているモデルを多様な視点からみることができ、今後の地域づくりの実践に活かしていきたいと感じた。
- ・ 気軽に歩いて行ける場所に集うことで地域の方が元気になる源になっていることが理解できた。ゆんたくばあめぐみの継続で私のヤー（家）ぐまいも解消されていて、ぜひ継続してほしい。

(満足度未記入)

- ・ ゆんたくばあめぐみは私達の心のささえです。

6. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 市の人口減少、高齢化率の上昇が想像以上であり、めぐみの活動は一層重要性を増すときづかされた。
- ・ ボランティアをふやす、見守り隊の拠点をふやす。若年層の参加をふやす。
- ・ 行政も「ゆんたくばあ」のような場所を広げて行くといい（べき）ですネ。
- ・ システムとしての細分化（分析）をし、継続、発展につなげられるのではないかな。
- ・ 敷居の低い相談機能を担っていることは、他の地域でも身近な相談窓口として広げていきたい。
- ・ 多様な役割をになっている居場所のあり方、役割分担する。庁内でこのようなとりくみがあることを、共有することも大事だと考えてます。行政としても柔軟な視点をもってとりくみたいですね。
- ・ 経営向のパートナー是非、関係人の中から見つけて欲しいと思います。
- ・ どうにかめぐみが続きますように。
- ・ 一人一人から10万づつもらってほしいです。
- ・ 銀行での健康相談、福祉相談のようなものがふえるといいと思った。めぐみの存続の話題をもう少しほりさげる時間があった方がよかった。アイデア出たが具体的にならなかった。ミニデイサービスや赤い羽根募金の活用など介ゴ保険の予防事業として位置づけられないか。（介ゴ保険利用者の居場所づくりをした方がよい。）

(写真) 会場の様子



感想

★中下層のバーメグシ (A1程度)

→ 100%の理解ができた。

★人柄が良くて、相談しやすい

→ 近くに居ることがいい

★昼食会に行き、楽しく続けよう。

→ 人とのつながりが参考になった。

→ 30年振りに会えた (同級生)

→ 読書開始のきっかけがある。

継続するために?

・行政に認められて助成金が入る。

★特技をもっている人が多い地域!

(めぐみの近所)

アイルンさんの相談・利用者

1ヶ月 12万円×〇人 貸部屋 (民泊)
4ヶ月× 1ヶ月100円 寄付・貸し料

○ 運営マ 水きい画・ウエブの先生 ^{↑ 体操などの}
ご近所先生 4丁目にお住まい
お名前・地域でお金を集める

○ (T1市医師会 伴任印)

包括大石から依頼あり
人住会議 1ヶ月 40/R6 開催

○ (T1市手5つ) 協働関係
た

人が集

ここに集たさたおりにある。

助かる。Eの目的。

安心感。 出入り 助かる。

世代間交流

目的の居場所

継続に
繋げたい。

令和6年
から申し込ん

↓

認知症サポーター
士かけ

士かけ

学心を栽培

できる工夫

補完かんけい

おしおに

A1 食事

→ 料理

色んな人がある。



・ついにテを総打
支給うんぬのお金。

・地域の心の主体性。

市から
もらって
補助金 (活動費)
+ 地域の活動の会場

○ 景観と20 規一い ☆ 元身と(55) 規
ゆんくばあへん 通う 人のパワ
元身と(55) 規

② 子イサヒエにイサヒも 元身と(55) 規

本人と景観の間を取り持つ コーディネーターとして
互に所てん達の

・毎日いることバ大事。

・多様な場をどう持続させるか...

↳ 制度を覚えてほしい。(書類難しい)

・住民主体のボランティア。

・制度につなげるまでの間の時間。

↳ 期間限定の仕組みできないか?

・クラウドファンディングをしてみても?